

## 第37期第4回常任理事会議事録

日 時：2012年11月9日（金）13時30分～17時20分

会 場：日本気象学会事務室（気象庁8階）

出席者：新野，藤谷，岩崎，経田，徳廣，藤部，三上，以上7名（常任理事現在数13名）

欠席者：近藤，佐藤，田中，中島，中村，余田，以上6名

その他の出席者：田沢，萩原，渡辺（事務局）

### 議 事

1. 第37期第3回常任理事会議事録の確認

2. 会員の新規加入等について

新入会員12，退会7を全会一致で承認。2012年11月8日現在，会員数3,767名で通常会員は1,066名。

3. 各委員会からの報告

庶務…

1) 転載許可

申請者：伊東讓司

転載元：河瀬宏明著「はい、こちらお天気相談所」の書評 天気 Vol. 59, No. 8, 757-758

転載先：伊東讓司氏のホームページへの掲載

2) 後援名義等使用依頼受

①名称：理論応用力学講演会（第62回）

主催：日本学術会議

期日：2013年3月6日～8日

場所：東京工業大学大岡山キャンパス

名義：共催

②名称：第3回「分野4次世代ものづくり」シンポジウム

主催：東京大学生産技術研究所

期日：2012年12月7日

場所：独立行政法人理化学研究所計算科学研究機構 6F 講堂

名義：協賛

3) その他

・10月18日：気象集誌の印刷製本費及び英文校正費の開札を行った。

・11月8日：著作権情報センター面接相談（経田、事務局）を行った。

会計…2012年9,10月分の収支及び現預金検査報告。

・平成25年4月1月から公益社団法人に移行するのに併せて行う，会計区分，公益事業区分，及び会計科目の変更内容について報告があった。

天気…Vol. 59 No. 11 (2012年11月号) の掲載記事と，Vol. 59 No. 12 (2012年12月号) と Vol. 60 No. 1 (2013年1月号) の予定記事の報告。

・ここ2,3年，印刷事業費を抑えられている一方，投稿数と校正の手間は増えていることから，増員による編集作業の強化を検討していることが報告された。

気象集誌…Vol. 90 No. 6の掲載予定記事の報告。

・JMSJの国際情報発信強化を目指した，平成25年度科学研究費助成事業への研究成果公開促進費の応募についての報告。計画調書の最終確認を行い，応募を了承した。

- ・編集補佐員の応募と選考結果についての報告.

気象研究ノート…第226号「台風研究の最前線」の発刊は年明けになる見通しとの報告.

SOLA…投稿論文の処理について報告. 年初からの投稿論文数は72編になったこと, 編集事務処理の遅れは解消しつつあること, 10月より編集補助体制が村角さん独りになったことが報告された.

講演企画…2012年度春季大会の報告. 参加者総数は920名, 懇親会参加者総数は約180名であった.

- ・電子版予稿集の試行で実施したアンケート結果の報告. 電子版を冊子版と並行して販売する方法を2013年度春季大会での実施に向けて検討中であることが報告された.

- ・2013年度春季大会の専門分科会のテーマ案(締切までの全応募9件)が示され, 全会一致で承認した.

- ・2013年度春季大会でのリクルートブース導入について, これまでの試験的導入結果を踏まえた検討を人材育成・男女共同参画委員会にて行うことを了承した.

- ・2013年度日本地球惑星科学連合(JpGU)大会における主催・共催セッションを全会一致で承認した.

総合計画…第37期評議員会の構成の検討結果の報告. 評議員候補7名について, 理事の承諾を得た後に評議員候補に就任依頼を行うことを了承した.

- ・公益法人移行後の委員会体制について主な検討項目(総数, 役割等)について議論した.

学術…「日本の気象学の現状と展望」の取り組み状況の報告. 現在第一章の見直しを行っており, 会員からの意見募集は見直し後に行う予定であることが報告された.

- ・日本学術会議の大型研究計画マスタープランの策定についての報告.

電子情報…学会メーリングリストの移行と電子版気象研究ノートの会員向け提供サービスの構築についての検討状況の報告.

地球環境…温暖化書籍出版事業の進捗状況の報告. 執筆者会議にて, 出版時期をIPCC第5次評価報告書(AR5)の完成時期に合わせた2014年3月としたことが報告された.

気象研究コンソーシアム…2013年度春季大会におけるスペシャルセッション「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」の開催についての報告.

#### 4. その他

##### 1) 学会刊行物の著作権について

著作権協会の面接相談についての報告を基に, 学会刊行物の著作権の帰属についての考え方と電子化資料の公開に向けた課題を確認した.

2) 風工学シンポジウムの運営において持ち回りとしている幹事学会について, 2014年開催の担当は日本気象学会になる予定であることが報告された.

3) 日本学術会議による東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動の調査(第2回)依頼があった. 確認した回答内容を送付し, 調査に協力することを了承した.

平成24年12月26日

社団法人日本気象学会  
議長 新野 宏  
署名人 藤谷徳之助  
署名人 経田 正幸